

タイトル: インビザライン矯正について ～一般歯科医の観点から～

抄録:インビザライン矯正は、透明なアライナーを使用した矯正治療法であり、審美性や快適性の向上が期待される。一方で、一般歯科医がこの治療に関与する際の課題や制限も存在する。従来のワイヤー矯正と比較して、患者の負担を軽減する利点があるものの、適応症例の選択や治療計画の立案には専門的な知識が求められる。治療の予測性を高めるためには、デジタル技術の活用が重要となるが、臨床経験の少ない歯科医にとっては適切な診断と計画立案が課題となる。

今回の発表では、一般歯科医の視点から、インビザライン矯正の利点や課題について考察し、臨床における適用可能性を検討する。特に、治療の適応基準、治療計画の立て方、患者への説明方法、治療期間の見積もりなど、実際の診療で直面するポイントについて詳細に解説する。

前半では、インビザライン矯正の適応症例、治療計画の立案、患者管理について文献レビューおよび実際の臨床経験をもとに考察を行う。特に、軽度から中等度の不正咬合に対する有効性や、デジタル技術を活用した治療計画の利点について解説する。また、患者の期待と治療結果のギャップを埋めるためのカウンセリング技術にも触れる。

後半では、一般歯科医が直面する可能性のある課題、例えば、抜歯を伴う症例や複雑な咬合の改善に対する対応について詳しく述べる。また、適切な症例選択の重要性と、必要に応じて専門医と連携する方法についても議論する。治療中に生じる可能性のある問題、例えばアライナーの適合不良や患者のコンプライアンスの問題についても、実際の症例をもとに具体的な解決策を提示する。

さらに、治療後の保定や長期的な安定性についても言及し、後戻りを防ぐための対策を考察する。インビザライン矯正が一般歯科の診療においてどのように位置づけられるべきか、その適応範囲と限界を明確にし、安全かつ効果的な治療を提供するための指針を示す。

今回の発表が、一般歯科医によるインビザライン矯正の理解を深め、より安全かつ効果的な治療提供につながることを期待する。また、最新の治療トレンドや技術の進歩についても紹介し、今後の臨床応用に向けた実践的な知見を共有する場としたい。

略歴

2008 年 朝日大学歯学部入学

2014 年 朝日大学歯学部卒業

同年 朝日大学歯学部附属病院村上記念病院 研修医

2015 年 朝日大学歯学部附属病院村上記念病院 修練医

2016 年 医療法人慶丹会丹羽歯科

2017 年 医療法人慶丹会丹羽歯科

2019 年 医療法人社団湘美会 名古屋院

2020 年 医療法人有心会 名古屋院・京都院

2021 年 医療法人 T&C 光が丘塚本歯科クリニック